東北工業大学の“今”を伝える広報誌

工大広報

No.268
Winter 2013
2013年2月1日発行
（年4回発行）

卒業研修に取組む学生
研究に取組む大学院生

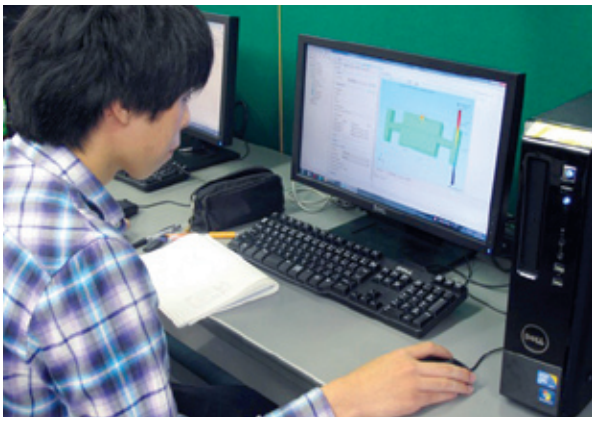
キズナ強化プロジェクト
―フィリピンの大学生50名との交流ワークショップ―

表紙写真：都市マネジメント学科新井信一研究室
震災時の遡上津波を調べる水槽実験

TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY
創造から統合へ―仙台からの発進
東北工業大学

卒業研修に取組む学生

工学部 | 情報通信工学科



構造解析の様子

単相駆動超音波モータの研究

渡邉（わたなべ） 幸平（こうへい）
情報通信工学科 4年

ロボットの関節を動かすために、現在はサーボモータが用いられています。しかし、これにはサイズが大きくなる欠点があります。私はギアなしのシンプルな構成で動かせ、小型化が容易な超音波モータについて研究・開発を行っています。開発は始めに解析による構造設計を行いました。新たに提案している構造の解析結果は2012年9月20日（木）の音響学会で発表、現在は実際に試作したモータで実験を行い、性能の評価をしています。設計して実験するまでの開発プロセスを一通り行う貴重な体験をしています。小型化を図り、共同研究企業と共に、具体的な製品化につながるように本学大学院進学後も取り組みたいと思います。

工学部 | 環境情報工学科

復興絵馬への絵付け作業（北六番丁小学校）

復興絵馬による復興学習の支援研究

関（せき） 将彦（まさひこ）
環境情報工学科 4年

卒業研修では廃ダンボールの再利用（環境学習）による復興絵馬ワークショップ（復興学習）を行っています。対象は仙台市立北六番丁小学校1～6年生289名、同中野小学校5、6年生31名、同七郷小学校5年生156名の計476名です。仙台東照宮や七郷神社はじめ、多くの地域関係者のご協力で無事に全員の絵馬ができ上がりました。私の研究内容は、児童が描いた絵馬やアンケートから心の声や思いを読み取り、ワークショップに対する意識や関心を調査しています。研究をとおして多くのことを学ばせていただきました。来年度から高校で教壇に立つ自分にとって、この経験は役立つものと思います。

ライフデザイン学部 | 経営コミュニケーション学科

おおさき産業フェアにて女川カレー販売

特定保健用食品のブランド力による販売促進効果

及川（おいかわ） 和希（かずき）
経営コミュニケーション学科 4年

私は佐藤飛鳥研究室（マーケティング/人的資源管理論ゼミ）に所属、食品プロジェクトの一環で被災した女川の新名物を目指して“女川カレー”販売のお手伝いをしています。新レシピの考案や、地元産業フェアでの販売活動をしています。卒業論文のテーマは「特定保健用食品（トクホ）のブランド力による販売促進効果について」です。健康志向が高まる中でトクホにブランド力はあるのか、トクホ認定商品が発がん性物質を含有していた問題の発覚後、ブランド力はなくなってきているのではないかなどをアンケート調査を踏まえ、明らかにします。学んできたことをいかせる食品卸業への就職も決まり、卒業後も大学での学びをいかすことができると思います。

卒業研修発表会 日程

八木山キャンパス 工学部

知能エレクトロニクス学科	2月27日（水）
情報通信工学科	2月27日（水）
建築学科	2月12日（火）・13日（水）
建設システム工学科	2月12日（火）
環境情報工学科	2月18日（月）

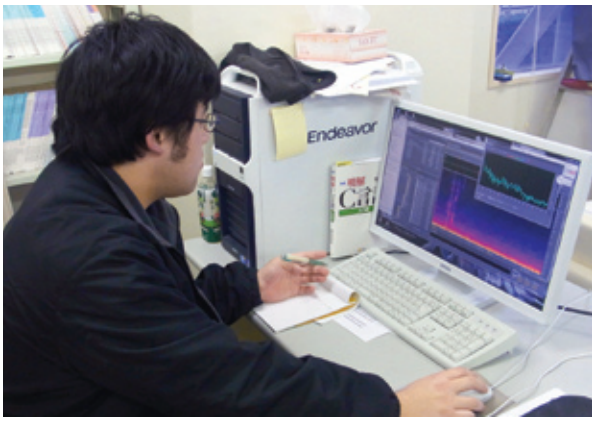
長町キャンパス ライフデザイン学部

クリエイティブデザイン学科※1	1月28日（月）～30日（水）
安全安心生活デザイン学科※2	2月12日（火）・14日（木）
経営コミュニケーション学科	1月29日（火）・30日（水）

※1　デザイン工学科インタラクション・プロダクトデザイン系、ビジュアルデザイン系を含む
※2　デザイン工学科スペースデザイン系を含む

研究に取組む大学院生

大学院 ｜ 工学研究科 ｜ 電子工学専攻



音声の解析

複数のマイクを使用した車内音声認識の研究

藤澤（ふじさわ） 大希（だいき）
電子工学専攻 博士（前期）課程 2年

私は音声自動認識のカーナビゲーションへの応用について研究しています。現在の技術では、車の中など周囲の騒音が大きい環境で、正確な認識を行うことは困難です。この問題に対応するため、ダッシュボードに多数のマイクロホンを配置し、入力される信号の微妙な違いを利用して、音声と雑音を分離する手法を検討しています。このような研究では大量のデータを効率的に処理することが必要で、学部や大学院で学んだプログラミング技術が重要になります。たった一つのタイプミスが原因で、数日分の計算を無駄にして落ち込むこともありますが、多くの人に使ってもらえる優れたシステムを目指して、残された時間を精一杯頑張りたいと思っています。

大学院 ｜ 工学研究科 ｜ 建築学専攻

板倉を実測調査

古い建物に蓄積する技術や考え方

渡邊（わたなべ） 亮（りょう）
建築学専攻 博士（前期）課程 2年

私は建築分野の中でも歴史意匠を専攻、特に地震や津波で被害を受けた古い家屋や蔵など、その多くは解体を余儀なくされている建物を調査しています。古い建物には、そこに蓄積されている技術や考え方があり、壊してしまえば二度と同じものは建てられません。そういったこともあり、自分の取り組みが自身や後世にとっても意義あるものになればと思います。実際の調査は、市役所の方と協力して行う場面が多く、学部時代の頃とは違った充実感があります。大学院を志望している学生やそのご父母には、ぜひ学生自身の探究心を満たし好きなことに没頭する期間、そして知識を溜めそれを有意義に育める期間にして欲しいと思います。

大学院 ｜ 工学研究科 ｜ デザイン工学専攻

ツールを使ったディスカッション後の振り返り

コミュニケーションを支援するツールの開発

阿部（あべ） 卓弥（たくや）
デザイン工学専攻 博士（前期）課程 2年

私は、「分散型コミュニティにおける議論の支援方法の研究」というテーマで研究を行っています。分散型コミュニティとは、コミュニティのメンバーが遠隔地にいるために、同じ時間・場所でコミュニティの活動を行うことが難しい人びとのことです。このようなコミュニティでは、対面でのコミュニケーション以上に、他の参加者の活動、発言が目に見え、伝わること(フィードバック)が大切です。そこで私は、このフィードバックとレスポンスの向上を目的としたツールの開発を行い、分散型コミュニティの人びとのコミュニケーションの支援を通して、コミュニケーションの本質を明らかにする研究をしています。

卒業研修学外発表 日程

東北工業大学一番町ロビーギャラリー（1階）	環境情報工学科	2月22日（金）～27日（水）
	経営コミュニケーション学科	3月 1日（金）～ 6日（水）
せんだいメディアテーク（5階）	建築学科	3月 1日（金）～ 6日（水）
	クリエイティブデザイン学科	2月15日（金）～20日（水）
	安全安心生活デザイン学科	3月 1日（金）～ 6日（水）

大学院・専攻発表会 日程

八木山キャンパス	電子工学専攻	2月22日（金）
	通信工学専攻	2月25日（月）
	建築学専攻	2月20日（水）
	土木工学専攻	2月18日（月）
	環境情報工学専攻	2月28日（木）
長　町キャンパス	デザイン工学専攻	2月22日（金）

就活を直前にした3年生への支援

企業の新卒求人数は、2008年のリーマン・ショックによる世界同時不況に端を発し、ギリシャの財政関連の円高、そして東日本大震災に加えてタイ大洪水とたて続けに発生した環境により、一時的に落ち込みましたが、それ以降は徐々に回復傾向にあります。3年生を対象とする就職活動は、倫理憲章の改正により2か月短縮されて昨年12月からスタートしました。今後企業説明会が目白押しで開催されます。学生諸君は、乗り遅れのないよう十分に気を引き締めて、就職活動に挑んでください。以下は各学科の就職担当教員からの4年生の就職状況と3年生・大学院博士(前期)課程1年生へのアドバイスです。

千葉 則行（ちば のりゆき） 就職部長／都市マネジメント学科 教授

工学部 知能エレクトロニクス学科

早期の企業研究・自己分析・面接対策

阿部 俊三（あべ としみ）
知能エレクトロニクス学科 教授

本学科では、リーマンショックや震災と厳しい逆風の中、昨年、一昨年とも就職希望者全員が内定し社会に旅立ちました。学部4年生・院2年生は、製造業の海外進出、製造業の不況によるリストラ、雇用の削減などの影響もなく、就職内定率が極めて好調です。今後、3年生・大学院１年生に対し、教職員が一丸となり企業が最重要視している面接の対策と企業研究・自己分析などの就職支援に取り組んで行きます。学生諸君は、十分な試験対策準備を行い、就職戦線に臨んでください。全教職員が応援します。

工学部 情報通信工学科

面接では話したい内容を分りやすく正確に

佐藤 光男（さとう みつお）
情報通信工学科 教授

本学科の今年度の就職内定率は過去3年に比べれば多少改善されておりますが、それでもまだ経済不況や大震災などの影響により、特に情報関連企業については厳しい状況が続いております。厳しい就職戦線を勝ち抜くには、企業が最も重視する面接試験の対策を十分に行うことが必要です。その対策の基本として、学生諸君には、相手に話したい内容を分りやすく正確に伝える練習を日頃からやってもらいたいと思います。

工学部 建築学科

目標を定め、早めの準備を

沼野 夏生（ぬまの なつお）
建築学科 教授

今年度は震災復興に関連して施工管理系や技術職公務員の求人が増え、建築学科の就職状況は好調に推移しています。来年度もこの傾向は続くでしょう。業界の動向を見極めながら、自分の興味や適性を活かせる目標をできるだけ早く定めてください。学部生の場合、目標の定め方次第では大学院進学も極めて有効です。大学と学科が提供する多様なサポートや情報を最大限に活かし、効率的に準備することで「なりたい自分」を実現しましょう。

工学部 都市マネジメント学科

働くとはどういうことか

菊池 輝（きくち あきら）
都市マネジメント学科 准教授

私自身の「就活」を振り返ると、とても悩んだことを思い出します。まだ20代で自分自身のことなんてよく分からないのに、自己PRというのは難しい作業でした。就職決定後も、自分に合っているのだろうか？と悩む日もありました。しかし現在は、「組織に属して、人間関係の中で経験を積みながら、人間は成長していく」と考えるようになりました。あの時の悩みは成長の出発点だったと思います。最後まで諦めずに頑張りましょう。

工学部 環境エネルギー学科

就職状況と3年生へのアドバイス

小祝 慶紀（こいわい ひろのり）
環境エネルギー学科 准教授

環境情報工学科の3年生諸君！いよいよ就職活動が解禁され、一斉に走り出していることと思います。君たちの先輩である、環境情報工学科の4年生たちは、宮城県庁、市町村職員、東京消防庁、自衛隊をはじめ公務員関係、民間企業への就職を決め、奮闘努力の結果を出しています。これは、内定者の4年生のアドバイスにもあった「早期の対策」の結果だと思います。人生最大？の選択の時期です。学科の先生方はもちろん、オール工大で君たちをバックアップします。Never Give Up！

ライフデザイン学部 クリエイティブデザイン学科

まずはポートフォリオを

篠原 良太（しのはら りょうた）
クリエイティブデザイン学科 准教授

例年、クリエイティブデザイン学科の就職決定は遅くなる傾向にありますが、秋以降内定者が増えてきています。コースにより差が出ていますが、明確な目標も持って活動している学生は、一歩一歩前進をしています。また、12月より本格的に就職活動をスタートした3年生の諸君は、幅広い分野で「デザイン」が求められていることを念頭に、分野を狭めずに、幅広い視点で学んだことをいかせる業種を考えてみましょう。また、どのような業種を目指すにしても、ポートフォリオは重要です。

3年生の諸君

沢田（さわだ） 康次（やすじ） 学長

スポーツでも就職面接でも勝負に勝つためには、相手と距離を置いてはいけない。

相手と一体化して、その中で相手を自分に引き込む。これが勝負の極意である。

就職活動では、企業側と共通の話題をもたないと距離が縮まらない。そのためには、今の世界情勢、日本の現状、相手の企業を知らねばならない。相手を自分に引き込むには、自分の個人的体験を語ることが有効である。今からでもその用意は遅くない。

ライフデザイン学部　安全安心生活デザイン学科

眼こそ命

大沼（おおぬま） 正寛（まさひろ）
安全安心生活デザイン学科 准教授

熱中していることはありますか？会社の有名無名に捉われない独自の価値観をもっていますか？新しいことに挑戦し、どんな地域にでも赴く意欲を持っていますか？それは必ず眼つきに現れます。人事担当者はプロですから、一瞬で見抜きます。気持ちは焦りますが、自分を磨けば、結果はついてきます。見る眼、見られる眼を鍛えることを忘れずに、研究やクラブ活動、旅や交友を大切にしながら、じっくり取り組んでください。

ライフデザイン学部　経営コミュニケーション学科

就職試験対策のための地道な努力

亀井（かめい） あかね
経営コミュニケーション学科 講師

東日本大震災から1年10か月経ちました。震災の影響で苦戦を強いられた昨年度に比べて、就職内定率は改善されています。また、被災経験により学生は「社会にどのように関わり貢献することができるのか」という意識を持って就職活動に取り組むようになりました。12月1日（土）には3年生の就職活動が解禁となりました。今年度は学科独自の支援として少人数制の「SPI・一般教養試験対策講座」を開講し、学生と教員が一丸となって地道な努力をしています。

キャリアサポートプログラム

本学では、早い時期から学生一人ひとりが卒業後のキャリアについて考え、希望と自信を持って就職活動に臨むことができるように1年生から始まる支援プログラムを行っております。主な取り組みを紹介します。

1年生

就職ガイダンス
入学時から、大学での学びの意義・職業意識の醸成を促します。

適性検査①
自分自身の性格や興味を理解し、将来の目標設定などを自覚します。

2年生

就職ガイダンス
自分の適性・能力に応じた進路を考えることを促します。

適性検査②
これまでの学生生活を振り返り、改善すべき点や進路目標を考えます。

3年生・大学院1年生

就職ガイダンス
本格的な就職活動のスタートにあたり、具体的な就職活動の方法について指導します。

適性検査③ ※大学院対象外
職業についての理解を深め、自己PRや企業研究のきっかけづくりに役立てる検査を実施します。

就職講習会
就職活動を進める心構え・マナーや、業界・企業研究、自己分析、エントリーシート、面接などについて解説・説明します。

就職業界・企業研究会
企業から講師を招き、就職活動を始めるに当たっての心構えやそれぞれの業界・企業が求める人材などについてお話しいただく研究会を実施します。

就職模擬面接
外部講師を招き、面接の実技指導を行うとともに、履歴書記入のポイントについて指導します。

SPI・エントリーシート対策講座
多くの企業の採用試験で利用されているＳＰＩ試験対策講座と、書類選考で重要なエントリーシート対策講座を併せて実施します。

合同企業説明会
本学主催による合同企業説明会を開催します。

4年生・大学院2年生

個別就職指導
キャリアサポート課、学科の就職委員および研修担当教員が連携し、個々に応じた就職相談・指導を実施します。

合同企業説明会・模擬面接
未内定者に対し、学内で合同企業説明会を開催します。また、模擬面接を実施して実技指導を行います。

インターンシップ
主に夏季休業中を利用し、企業での就業体験を通して自己の職業適性など、職業選択について考える機会とします。

就職試験対策講座（2・3年生、大学院1年生対象）
夏季・春季休業を利用して行う民間就職試験（専門・常識・適性）、公務員試験対策の集中講座を開催します。

就職活動なんでも相談（全学年対象）
学外から専門のキャリアアドバイザーを招き、就職活動に関するあらゆる相談のための窓口を設置しています。

フィリピンの大学生との交流ワークショップ開催報告

「キズナ強化プロジェクトに参加して」

宮曽根（みやそね） 美香（みか）
国際交流委員会幹事
経営コミュニケーション学科 教授

フィリピンの大学生50名との「キズナ強化プロジェクト」が12月12日（水）、東北工業大学を会場に開催されました。

今回のテーマは「東日本大震災からの復興に向けた本学としての活動」です。

ワークショップは沢田康次学長の挨拶とプレゼンテーションで始まり、石川善美副学長の昨年の震災への大学の取り組みについてのプレゼンテーションが続きました。その後、学生による本学と仙台の紹介のほか、仮設住宅支援の活動、震災に対応する幼児用防災グッズ「つみきめっと」の3つのプレゼンテーションがあり、いずれも充実した内容でした。

フィリピンの学生たちはそれぞれ大学も専攻分野も異なりましたが、熱心に聴き、発表者への具体的な質問や興味深いコメントおよび提案をしていて、その姿に感銘を受けました。彼らの日本語と英語によるスピーチに続き、フィリピンのダンスと歌を披露してもらいました。その後の昼食交流会を経て、耐震補強構造、災害支援ロボット、放射線測定施設の学内視察がありました。

今回のプロジェクトを通して参加者の震災への理解とフィリピン、日本両国の学生交流を深めることができたと思います。

＜キズナ強化プロジェクト＞
アジアや大洋州、北米地域の若者に、東日本大震災の被災地を視察してもらい、復興に向け活動する日本の若者との交流を図り行われている外務省の事業。1年間で外国からの招へいや派遣で約1万人の若者の交流を目指し、日本再生への協力と理解を促進し、復興の姿を国際社会に発信する。

中原大学（台湾）との交流 建築学科からの短期留学派遣報告

中原大学（台湾）短期留学の引率

新井（あらい） 信幸（のぶゆき）
建築学科 講師

10月上旬の3日間、建築学科4年丹野佑香さんと千葉祐輔さんの短期留学の引率のため台湾・中原大学を訪れました。

2日目には先方の曽先生とゼミの学生たちとともに、宮崎駿アニメにも登場した坂のまち「九份（きゅうふん）」に向かいました。山の上に忽然と現れた九份のまちは、細い階段状の路地が幾重にも交差する迷宮のような空間で、路地沿いにたくさんある飲食店も古いものから新しいものまであり、なんとも独特で魅力的なところでした。

本学の二人は中原大学の学生たちともすぐに打ち解けて、カタコトの英語で積極的にコミュニケーションをとっていました。

彼らは約2か月間、中原大学に籍を置き、主に卒業設計（建築）の指導を受けます。希望に溢れる二人の背中をみながら、安心して仙台に帰ってきました。

九份のメインストリート

タイムスリップしたような

千葉（ちば） 祐輔（ゆうすけ）
建築学科 4年

台湾留学を希望した私の理由は、卒業設計のテーマがコミュニティであったことと単に異文化に触れてみたいという気持ちからでした。あちらの街の様子はというと、歴史のありそうなレンガ造りの建物があるかと思えば、高層ビルが垣間見えたりと日本の80年代(私は生まれていませんが)のような雰囲気を持っているのではないかと感じました。

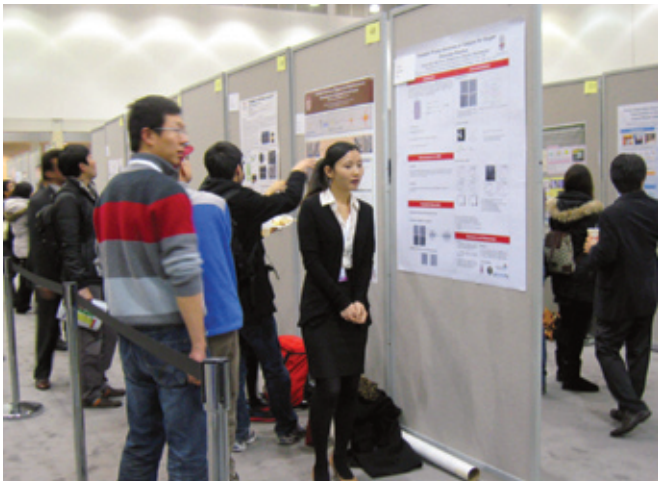
また、街には「夜市」と呼ばれる屋台や飲食店が連なる通りが存在し、昼間から賑わいを見せお祭りのような空間が広がっています。そこには店と客もしくは客同士のコミュニケーションが見られ、何気ない生活の中に小さなコミュニケーションが発生していました。

現地の学生も同様にフレンドリーで、私たちに対して台湾の良さをいろいろと教えてくれました。終わってみれば2か月間はあっという間に過ぎていました。ぜひまた留学して、今回行けなかった場所にも行ってみたいものですね。

活気のある場所

丹野（たんの） 佑香（ゆか）
建築学科 4年

私は台湾で2か月過ごして「台湾は活気に満ち溢れている」と感じました。風景や人の様子は日本とよく似ています。でも、この似ている中にある些細な違いの中から「活気」を感じました。道を歩く人や交通量が多いという賑わいだけではなく、建物の雰囲気や街並みからも伝わってきます。台湾は夜市という縁日のような雰囲気の飲食街が有名なのですが、そこを訪れた時の人やお店の多さに圧倒されると同時に毎日お祭りのような賑わいが続いていることに驚きました。その他にも住宅などの自分のスペースをどんどんカスタマイズしていく様子など、空間そのものにも元気さを感じました。台湾で感じた場所の持つ勢いを卒業設計で表現したいと思います。



ポスターセッションの様子

発表会場

国際会議に参加して

内野（うちの） 俊（たかし）
知能エレクトロニクス学科 教授

アメリカ合衆国ボストンで11月25-30日に開催されたMRS Fall Meetingに参加しました。今回は過去最高の6,600名が参加して、材料やデバイスに関する研究成果が議論されました。私は、カーボンナノチューブを用いた太陽電池などの光電子デバイスについて口頭発表しました。

本会議は非常に大規模で、約50のシンポジウムに分かれて口頭発表やポスター発表などが行われました。口頭発表では、学術雑誌に掲載された研究成果を直接見聞きすることができました。ポスター発表では、多数の学生が研究成果について活発に議論をしていました。

ボストン・レッドソックスの本拠地フェンウェイ・パーク

国際会議などを通して研究成果を社会に発信することは、研究者の重要な責務であることを忘れないで、本学の学生も参加してほしいと思いました。

国際会議 SIN2012 に参加して

角田（つのだ） 裕（ひろし）
情報通信工学科 講師

インド北部の都市ジャイプールで10月下旬に開催された 5th ACM International Conference on Security of Information and Networks (SIN 2012) に参加し、「Security by Simple Traffic Monitoring」と題して、セキュリティにおけるトラヒックモニタリングの重要性について発表してきました。

全体の参加者はそれほど多くはありませんでしたが、その分活発で濃い議論ができる良い会議だったと思います。会場となったマラビヤ工科大学の学生ボランティアが会議の運営に参加し、学部生までもが積極的に海外の研究者と交流、議論していた姿が印象的でした。

参加者の集合写真

韓国・高麗大学と学術交流協定を締結

韓国・高麗大学電子工学科と本学工学部が、昨年１２月３日に学術交流協定を締結しました。

高麗大学で行われた調印式では、本学上杉直工学部長と高麗大学Seonwook Kim電子工学科学科長が協定書に署名し、これからの学術交流を誓いました。

本学からは知能エレクトロニクス学科の本多直樹学科長、高麗大学からはSuwon Chae工学部長はじめ、電子工学科から副学科長や教員が参列しました。

高麗大学は１９０５年の設立、学生数約３４，０００名の韓国でもトップクラスのマンモス私立総合大学です。交流する電子工学科は学生数１，１００名、大学院生１６０名で、約６０名の教員が所属しています。研究分野は、電気、通信、電子など幅広く、本学の知能エレクトロニクス学科、情報通信工学科、環境エネルギー学科の各学科に対応しています。授業の一部は英語で行い、サムソン、LG、現代グループなどの大手企業との産学連携も活発です。

高麗大学は本学の優秀な学生や教員との交流を希望しています。今後、学生の留学や研究面での活発な交流が期待されます。

新技術創造研究センターでは、産学官連携、行政や地域企業との交流などの取り組みを進めています。東日本大震災については、本学独自の復興プロジェクトである「地域復興のための共同プロジェクト」の推進室を設置し、地域企業、地方自治体と連携しながら被災した地域の要望に応え、地域の社会再生に直結した支援を目指しています。その活動の一つとして、おおさき産業フェアへ参加しています。

「おおさき産業フェア2012」に参加

「おおさき産業フェア2012」（主催:大崎市・NPO法人未来産業おおさき）が、11月2日（金）、3日（土）の2日間、大崎市古川総合体育館で開催されました。このフェアは、宮城県の県北・大崎地区の産業活性化を図るため、地元で作られる製品・技術を一堂に展示し、また特産品などの販売も行う活気あるイベントです。産学官連携推進活動として、宮城・岩手の大学や宮城県産業技術総合センターなどの機関・団体も出展しています。

新技術創造研究センターでは、屋内と屋外のブースにそれぞれ出展し、屋内のブースには、本学教職員による震災復興支援活動「地域復興のための共同プロジェクト」のパネル展示での活動紹介と、クリエイティブデザイン学科の梅田弘樹准教授の幼児向け防災グッズ「つみきめっと」（特許出願中）の製品サンプルを展示しました。「つみきめっと」は、製品化を目指し、宮城県発のスマートデザイン発進拠点を目指すモノづくりブランド「AVAIN（アバイン）」の第1弾商品と位置付けています。来場者は手に取ってその感触を確かめるなど、多くの注目を集めていました。今後の展開に期待しています。

また屋外では、経営コミュニケーション学科の佐藤飛鳥准教授が行っている「宮城県食品工業　学生参加による販路・マーケティング支援プロジェクト」活動として、学生自ら考案した調理レシピを添付した「女川カレーBOOK」の店頭販売による支援活動を行いました。

1.幼児向け防災グッズ「つみきめっと」について説明／2.屋内展示ブースの様子／3.屋外ブース、学生による「女川カレーBOOK」の販売／4.学生自ら考案したレシピを紹介

地域復興のための共同プロジェクト「被災地における子どもたちの将来を考えた教育支援」

学生企画MIXベリープロジェクト クリスマス会の報告

MIXベリープロジェクト「クリスマス会」が、12月15日（土）、宮城県亘理町佐藤記念体育館で開催されました。当日は悪天候にもかかわらず、小学生と保護者、約40名が参加しました。

本プロジェクト参加の学生は夏から亘理町公共ゾーン仮設住宅で継続的にボランティア活動を行ってきました。

クリスマス会の企画には15名の学生（経営コミュニケーション学科）が参加しました。今回は齋和磨さんと川名真弘さん（ともに3年生）が企画リーダーを担当しました。企業交渉を担当した阿部亮太さんと齋藤翔梧さん（ともに3年生）は、ビジネス文章の作成、電話での交渉など、とても苦労したようでしたが、プロジェクトの活動趣旨を企業に理解してもらい、多くの協賛を得ることができました。協賛品はクリスマスプレゼントとして、参加した小学生全員に手渡し喜んでもらいました。

協賛いただいた主な企業は、株式会社ファミリーマート、株式会社伊藤園、株式会社不二家、株式会社ロッテ、有限会社寿生堂（patisserie Kazunoli Mulata）などです。

クリスマス会終了後集合写真

八木山の秋を楽しむ

「秋の八木山フェスタ」が文化の日の１１月３日、本学八木山キャンパスはじめ八木山動物公園、八木山ベニーランドを会場に開かれ、本学は1,400名余の入場者でにぎわいました。

「フェスタ」は今回で７回目。動物公園、ベニーランドや地域町内会が八木山地区を盛り上げようと開催、本学は３回目から参加、地域との連携を積極的に進めています。

この日は動物公園、ベニーランドが入場無料のため、仙台市内他地域から訪れる人の車で混雑しますが、動物公園では動物とのふれあいイベント、ベニーランドでは仙台市や宮城県内で活躍するキャラクターが登場、特色を生かしたイベントを行っています。また地元小学生の「フェスタ」ポスターコンクール、市民センターで活動するグループなど、地域の幅広い年代が参加しています。

本学では、建築学科学生有志「ＣＯＬＯＲＳ」の生クリームとお菓子で作る「おかしの家」が、開場前から子どもや親が並ぶ人気ぶり。終日楽しそうな声が飛び交っていました。

また、本学イベントの目玉は大学吹奏楽部や社会人吹奏楽団体の演奏、地域のコーラス３グループの歌声などの音楽イベント。出演者も聴衆も会場は芸術の秋を満喫する人でにぎわいました。

今年は東北工業大学高校の生徒が積極的に参加、本学学生と生徒が協力して作った高さ2.5ｍのダンボールロボットの展示、本学教員と高校生が制作指導したブーメラン教室なども人気でした。

地域防災シンポジウムin八木山「地域防災で自分たちができること」

伊藤（いとう） 美由紀（みゆき）
地域安全安心センター 副所長
安全安心生活デザイン学科 准教授

地域での異世代間の交流を深めることを目的に地域防災シンポジウム（八木山防災連絡会主催）が、12月1日（土）、仙台市八木山市民センターで開催され、200名近い参加者が活発に意見を交換しました。

シンポジウムでは、東日本大震災時の地域での取り組みを小・中・高校生、大学生、地域住民が発表しました。聴講していた小学生から高齢者までの住民も意見交換に加わり、参加者が一体となったシンポジウムでした。

本学からは、ボランティア部代表として菊地弘晃さん（知能エレクトロニクス学科4年）、宮城県七ヶ浜町を中心に足湯ボランティア活動をしている清水玲奈さん（安全安心生活デザイン学科2年）がシンポジストで参加し、実践した実のある内容を紹介したことは本学学生として誇らしく思いました。

今回のシンポジウムに参画して、本学と地域との連携がとても重要であり、世代間交流が期待されていることを強く認識しました。

1年5組を担当した学生の授業

3年生が「一日実習」で教員を体験

佐藤（さとう） 三之（かずゆき）（共通教育センター教職課程部 教授）

3年生の教職課程受講者25名が、4年次教育実習の事前学習の一環として、11月16日（金）、宮城県松島高校で「一日実習」を体験しました。朝読書の見学後、校長、教頭、教務部長の各先生から教員としての心構えや教員人生、学校・生徒の現状についての講話をいただき、さらに2・3時間目は授業を参観し午前の部を終了。午後は、5時間目に1年生5クラスに分かれて、ロングホームルームの実践授業（進路指導「大学生活と学習」）に臨みました。各班とも1か月ほどかけての準備の成果が出ていたように思われました。

「一日実習」は、今回で実施10年目になりますが、学生諸君にとっては教育現場の実態に触れ、進路としての教員を考えるよい機会となっています。

発電所中央制御室での質疑応答

エコロジーとエネルギーの見学会

環境エネルギー学科の一回生である1年生85名を対象とした、エコロジーとエネルギーに関する施設見学会を実施しました。秋晴れにも恵まれ、11月1日（木）は福島県の相馬共同火力発電株式会社と仙台市今泉工場（ゴミ焼却場）を、11月8日（木）は同発電所と仙台市秋保温泉浄化センターを見学しました。学生は普段何気なく使っている電気がどのように作られるのか、また何気なく捨てているゴミや排水がどのように処理されているかを、現地での解説や質疑応答などをとおして学んでくれたようです。両日とも各施設の皆さまには懇切丁寧に対応していただきました。

「第6回東北の建築を描く展」表彰式

「第6回東北の建築を描く展」開催

「第6回東北の建築を描く展」が10月26日から31日まで、せんだいメディアテークを会場に開催されました。今年は全国から440作品の応募があり、審査の結果205作品が入選となりました。入賞作品は38作品で、10月27日（土）、沢田康次学長が列席して表彰式が行われ、入賞者一人ひとりに賞状と賞金・賞品が授与されました。昨年は東日本大震災の影響で出品作品が減少しましたが、今年の応募総数は震災前の状況に戻り、遠く香川県や福岡県から応募作品が寄せられました。

トポステンポを興味深そうに見学する視察団

トポステンポに文部科学省からS評価

平成21～23年度に本学で実施した「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラムへの文部科学省の評価が行われ、トポステンポの取り組みがS評価となりました。S評価に伴い、文部科学省と日本学生支援機構のスタッフが視察を行いました。

トポステンポでは、タイムダラー制度を用いた学生相互の支援体制づくりや、座談会はじめ学生主催イベントの企画・実施補助などを行っています。キャリア支援については就職の支援に加え、働きながら生きていくための力を育む「キャリア発達支援」の視点を持ち、学生のユニークな活動を引き出した、すぐれた取り組みである点が評価されました。

視察した京都大学の大塚雄作教授は学生へのインタビュー後「学生自身がトポステンポを通じて、自身の変化を自覚している点は素晴らしい。とてもユニークな取り組みなので、ぜひ継続してほしい」とコメントしています。

東北工業大学の"今"を伝える広報誌
工大広報 No.268 Winter 2013
2013年2月1日発行（年4回発行）
発行：東北工業大学
〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35番1号
TEL:022-305-3145（広報室） http://www.tohtech.ac.jp

PROFILE

情報通信工学科
松田（まつだ） 勝敬（まさひろ） 准教授 を

情報通信工学科
角田（つのだ） 裕（ひろし） 講師

が 紹介

何でも本気、研究も本気、息抜きも本気

松田勝敬先生は2000年に宇都宮大学大学院で博士（工学）の学位を取得され、同大学総合情報処理センター助手を経て2005年に本学情報通信工学科に着任されました。前職では研究だけではなくネットワーク運用の実務も担当されていたとのことで、豊富な知識と経験を生かして本学でも情報センターの副センター長としてネットワーク設計・構築・運用の中心的役割を担っていらっしゃいます。研究では、組込み機器やデータベースを活用して、緊急地震速報システムや仙台市のバスマップなど実生活に役立つ実用的なシステムの開発を進めておられます。何ごとにも手を抜くことなく本気で取り組む松田先生。講義での本気の雑談は学生にも人気です。

トピックス

地震避難訓練に1,120名

平成23年3月11日の東日本大震災とその後の余震の経験から、今後も起こりうる大規模地震に備えた避難訓練が、自衛消防隊と減災行動・体制検討WGの共同主催で、八木山キャンパスは11月20日（火）、長町キャンパスは11月26日（月）に行われました。今回の避難訓練では、震度5強以上の地震とそれに伴う火災の発生を想定、太白消防署の協力を得て八木山キャンパスで地震体験車「ぐらら」と煙体験ハウス、両キャンパスで消火器操作訓練、通報訓練を行いました。両日は授業科目の少ない日にもかかわらず、午後3時50分からの訓練に両キャンパス合わせて1,120名の学生と教職員が参加しました。

AEDの実技講習会

教職員を対象にしたAED講習会が、10月5日（金）にTohtech FORUMで行われました。今回は高校、大学あわせて17名の教職員が参加し、仙台市消防局太白消防署の指導員より、緊急時の心臓圧迫（以前は心臓マッサージと表記）・人工呼吸・AEDの使用法について実技を含めた指導を受けました。救命の技術も日進月歩しており、AED以上に、心臓を動かして脳に酸素を送り続けることの重要性を改めて学びました。受講者には、仙台市消防局から「普通救命講習終了証」が交付されました。

学内無線LANの利用開始

学内ネットワークの利便性向上のため、平成24年6月より学内無線LANの接続サービス（Tohtech Wireless LAN）を開始しています。アクセスポイントは、八木山キャンパス1号館1～3階、食堂、10号館1階の5か所に設置してあります。統合認証システムのIDを使い、アクセスポイントの近辺で無線LANに対応した機器を利用できます。今年4月から、長町キャンパスにも利用範囲を拡大する予定です。利用方法は情報センターWebサイト（学内からのみ閲覧可）をご覧ください。

平成25年度東日本大震災被災者特別支援（奨学金）のお知らせ

東日本大震災により被災し修学困難となった学生に対する支援策として、親（家計維持者）が被災した学部学生・大学院生を対象に奨学金を支給します。

【対象】災害救助法の適用地域に居住する親（家計維持者）が被災し、次のいずれかの要件を満たす。
家計維持者が死亡または行方不明／家計維持者が所有の自宅住居家屋が全壊（流失）・大規模半壊・半壊／家計維持者が所有の自宅住居家屋が福島原発事故による立入り禁止区域に指定　※自宅家屋には同居する家族所有のものを含む

【申請書類】申請書（本学所定）／奨学金振込先口座通帳の写し／被災状況など証明書（り災証明書／持家を証明する書類／死亡診断書など）

【申請期間】平成25年6月28日（金）まで
（申込案内などの詳細は、前期オリエンテーション時に配布します。）

申し込み・問合わせ　八木山キャンパス学生課／長町キャンパス事務室